

# EAR 834 音質評価



## 834

定価 (税別) ¥480,000

**販売価格はお返事します**



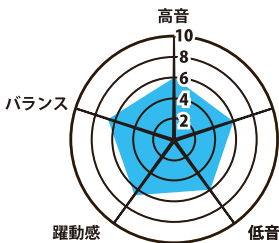
### 製品の概要

EAR 834 は海外で発売されている 834 のメッキを省きブラック仕上げとすることで低価格を実現した日本市場向け専用モデルです。入力 は 2 本の ECC83 (12AX7)、ドライバー段は 2 本の ECC85、出力管には EL34 が 8 本使用され、パラプッシュで 50W の最大出力を実現しています。もちろん出力トランスには EAR オリジナルの高音質スペシャル品が使われ、音質に手抜きはありません。入力 は、PH/CD/TUNE/AUX/AV/TAPE の 6 系統、出力は TAPE-OUT が一系統設けられています。入力感度は 200mV と少し高めですが、ボリュームは小音量時の音量調整も難しくありません。発熱は多く、無信号時の消費電力も 320W と真空管アンプとしても少し多めです。リモコンは付属しません。

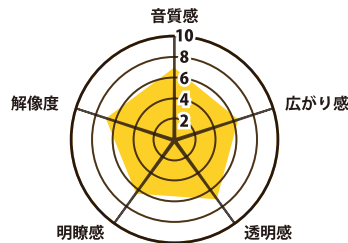
<明>-----◆-----<暗>

<柔>-----◆-----<硬>

#### エネルギー感



#### 音質感



形式	真空管式プリアンプ
入力数	LINE×6
出力数	TAPE OUT×1
使用真空管	ECC83×2、ECC85×2 EL34×8
最大出力(Ω)	50W (8/16Ω)
周波数特性	15Hz-40KHz
消費電力(無信号時)	320W(逸品館にて計測)
サイズ/重量	405×405×150(mm)/20kg
付属品	電源ケーブル

### 総評

834 はパラピチーニの作品らしく、実に見事にチューニングされています。アンプ自体の音にもほとんど癖が感じられませんが、組み合わせるスピーカーによってその性質が大きく左右されることもありません。

834 は EAR のエントリーモデルという位置づけですが、その音には鬼才パラピチーニの 40 年以上の長いアンプ作りの経験と、本格的な録音現場の体験が生かされています。834 の音にはほとんど癖らしい癖が感じられないのですが、それは達人が作る真空管アンプ / トランジスターアンプという方式や使用する真空管の種類に関わらず「達人の作る音」になる証でもあります。つまり、834 は正しい真空管アンプのお手本のような製品なのです。

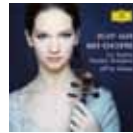
外観は控え目な大人の雰囲気ですし、実際大人の音に仕上げられています。ややこじつけがましいかもしれませんが、834 の音調には 400 年前にイギリスに移住したパラピチーニ家の出で立ちが感じられました。表面はイギリス人のように冷静で知的ですが、その血はイタリアの熱さを持っています。達人が作り上げた完璧な作品の一つ、それが 834 だと感じました。

### 音質テスト結果 PMC PB1i/Signature と組み合わせ



一音が出た瞬間に安心します。あらゆる音質バランスが適正で、音がすばらしく自然です。真空管アンプだとか、トランジスターアンプだとか、そういう先入観なしに安心して音楽が聴けるのは EAR ならではの良さでしょう。それぞれの楽器が「入る」タイミングやボーカルの発音(発声)に全く違和感がありません。アンプ作りの鬼才パラピチーニの作品らしく、完璧にチューニングされた音で音楽が楽

しめます。ボーカルは滑らかできめ細かく、表情はデリケートです。ベースは膨らまず、適切なボリュームがキチンと保たれます。ただし、ギターの音は少し優し過ぎる感じで、もう少しアタックに強さが欲しいと感じられました。それを除けば基本的に癖はほとんど感じられません。高域が繊細で透明、解像度が非常に高く、スタジオのプレイバック・モニターとしても使えるような端正で癖のない音で Selene が聞けました。少しクールな音調は時として分析的にも感じられますが、それは 834 ではなく PB1i/Signature の持ち味でしょう。弾けて爆発し外に向かうのではなく、静かに内面に食い込んでくるような音ですが、それこそ PMC PB1i/Signature 性格そのものです。834 は PMC を実に PMC らしく、真っ正直な音で鳴らしてくれました。



ほんの少し線が細いことを除けば、質感とエネルギーバランスは抜群に優れています。PMC らしく繊細で、超デリケートにパツパツが鳴ります。PB1i/Signature との組み合わせで、834 を最も高く評価できるのは「音に狂いが無い」部分です。パラピチーニの音決めの正確さ設計の巧みさが見事に音に現れて、演奏を聴いていると自然にオーディオの存在を忘れ音楽に深く没頭してしまいます。

明るく弾けるような音ではありませんが、きめ細かく滑らかで質感の高い音でパツパツが鳴る。ただ少し端正すぎるので、もう少しエネルギー感が加われば申し分ないと思いましたが、電源ケーブルの交換でエネルギー感是十分出せそうです。



高域の鮮度が驚くほど高く、高音が天井を突き抜けます。ガガのボーカルは、カメレオンのようにその表情とトーンがコロコロと変わることによって驚かされます。最近聞き始めたガガの素晴らしいは、あの奇抜なファッションではなく素晴らしい声とバランスの取れた楽曲にあると思います。834 では、その魅力的なガガのボーカルが実に見事に再現されます。ハスキーでドスのきいた太い声から突き抜けるような高音までのパワフルなイメージ、弾けるようなメロディーラインの楽しさ、ガガが作る楽曲はオーソドックスな魅力と斬新さに溢れていると思います。彼女が尊敬しているマドンナですら、ガガはそれを遙かに凌駕するほど感じさせるほど最近では彼女の楽曲が気に入っています。834 はその見事な音楽性と芸術性の高さ、彼女のまっすぐで強いメッセージをキチンと再現してくれました。

### 音質テスト結果 Focal 1028Be と組み合わせ



Stingray や TRV-A300SER で聞いたときと違って、834 では PB1i/Signature と 1028Be の音質差があまり大きく感じられません。PB1i/Signature から 1028Be にスピーカーを切り替えても、響きが増えることなく温かさと躍動的なイメージに大きな差が付きません。

スピーカーに音質が左右されにくい良くてきたトランジスターアンプのように、834 はスピーカーを癖なく鳴らします。また Stingray や A300SER では高音の先端がわずかに丸くなったように感じたのですが、834 ではそれがなくシンバルが実にそれらしく金属的に鳴ることに驚かされました。

ボーカルにはわずかに肉が付き、細部のディティールは少し甘くなります。ギターは響きが良くなりますが、やはり操作のデリケートさが少し後退しました。ベースの量感はいくらか増えますが、PB1i/Signature で感心させられた「入る」タイミングの完璧さが、やはり少し後退します。結果として、PB1i/Signature で感じた張り詰めた緊張感が薄くなり、演奏がよりフレンドリーで柔らかいものへと変化します。どちらも悪くないし、どちらも決定的ではありません。どちらかを選んで欲しいと問われると、両方共レベルが高すぎて返答に困ります。



この曲にはオレンジペコで感じた印象がそのまま当てはまります。響きは良くなりますが、引き替えに細部のディティールがすこし甘くなります。演奏の厚みは増えますが、一条乱れぬ完璧性が薄くなります。

全体的な印象としては悪くありませんが、この曲に関しては PB1i/Signature で聞けた「完璧性」に一票を投じたいと思いました。あれほど一条乱れぬ演奏を味わえるチャンスは、そう多くないからです。



PMC との組み合わせでクールな音を聞かせてくれた 834 ですが、1028Be と組み合わせでガガを聞くとそれとは全く違う、弾ける躍動感が出て驚かされます。

Stingray ほどの爆発力はありませんが、それでも十分に POPS が躍動します。高域はキラキラと美しく、ボーカルには説得力が感じられます。メロディーが変わる瞬間の切り替わりが実に鮮やかで、音楽がカメレオンのように変化し続け最初から最後まで一気に聞かされてしまいました。良い感じでした。